

少しは自信を持って、集中して取り組む子

上田 起久子

はじめに

H子は、大変おしゃべりである。自信のない事は、口でごまかしたり、「できん」「もういい」とすぐ諦めてしまう傾向にある。分かっている事でも聞き返したり、簡単な事でも教師の指示を仰いだりする等なかなか課題に落ち着いて取り組めないことが多い。また、身体の関節の動きが未分化で、一見、脳性マヒの後遺症かと思わせるぐらい動きがぎこちない。これら身体的・心理的特徴は、過緊張からくることが大きいという指摘を医師から受けた。このような状況を踏まえて、新しい学習課題を次から次に与えて追い込むのではなく、リラックスした雰囲気を作り、できることを中心的な活動にしながら少しずつ自信を持たせ、近い見通しのもとなら最後までじっくりと取り組む子を目指して指導していった。

1 プロフィール

(1) 生育歴

- ・昭和54年3月13日 12歳5か月 女子 第1子(2人弟)
歩き始め(18か月)、内斜視(3歳児検診)、中央病院脳小の診断によりリハビリに通う。(小1年の時2~3回)
- ・家庭保育4年、K幼稚園2年、K小学校6年(心障児学級)を経て本校中学部に入学。現在、中学部1年生。
- ・精神発達遅滞(H.3.8 診断、鳥取県立中央病院)CP後遺症

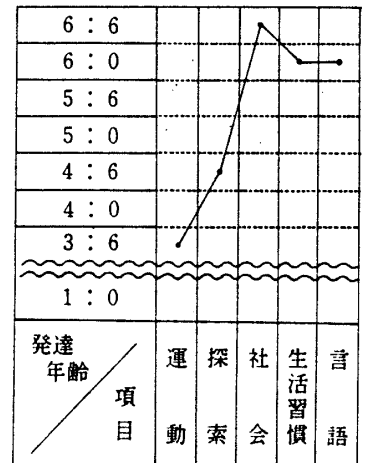


図1 津守式乳幼児精神発達検査

(2) 諸検査による実態

① 津守式乳幼児精神発達検査

言語・社会(対人関係の分野)に比較し、極端に『運動』面に遅れがあり、発達の偏りが見られる。また、生活習慣は比較的高いものの知的な要素を含む『探索』活動になると低く、身体を使って外に働きかけることが少なかったことが分かる。「時計」「お金の計算」等を苦手としているのは知的面での遅れよりも生活経験の不足が大きな原因となっていると思われる。

② MSTB

評価点は、平均SS「1.6」(12歳平均10)と極めて低い。脚や腕の筋力、腹筋力はもちろんのこと『連続

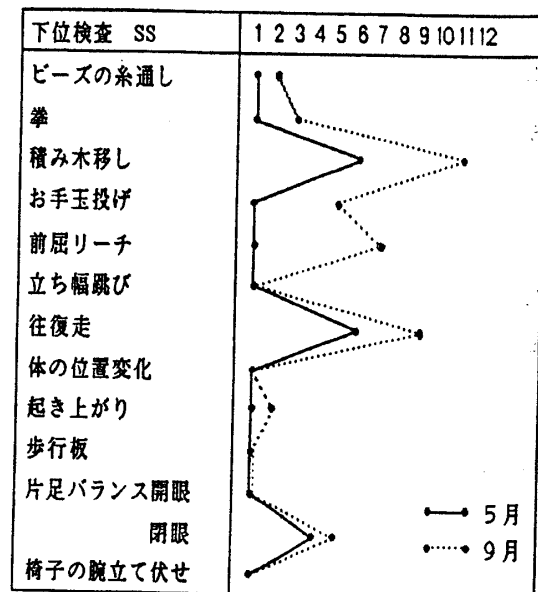


図2 MSTB評価プロフィール

した動き』『スピードやバランスを伴う動き』等敏捷性や身体意識に関する項目はほとんどできない。心理的なものも加わって粗大・微細運動共にかなりぎこちないことが分かる。

③ 行動特性

- ・体が堅く、動きがぎこちない上、手指の力も弱く、道具の操作も不器用である。
- ・緊張しやすく、常に自分のしていることに自信が持てないせいか教師の判断や指示を待っていることが多い。
- ・目的意識が定まらず、興味・関心が移りやすいため見通しが立ちにくく、なかなか集中して取り組めない。
- ・語彙は豊富で自由に言葉を使ったり、いかにも知っている風には話すが、実際にそれを行動として表現できない。
- ・友達と一緒に行動する事は好きであるが、調子に乗りやすい。



[ガスにこわごわ火を点けるH子]

2 取り組みの構想

認識の発達に比べ、身体を動かしたり、使いこなしたりすることに遅れが見られるH子。特に未経験分野ではどうして良いか分からなくて取り掛かりから抵抗を示すH子である。身体のぎこちなさはあるものの諦めず、楽しみの生活や必要感のある仕事を通していろいろなものに挑戦していく姿を目指し、次のような仮説および方針を立てた。

(1) 指導仮説

身体のコなしの遅れや道具を使うことへの抵抗は、本人のできないという意識やあきらめによって簡単にできることに逃避する傾向を強めた。その結果、経験拡大の機会を減らしたと思われる。身体を十分に動かしたり、使ったりすることの少なかったH子に対して少しずつできる事を増やし、活動する楽しさを味わわせたい。その楽しさは、できることを更に増やし、自信をもって行動したり、最後まで頑張る意志の力や持続力・集中力を育てるものと思われる。

(2) 指導方針

運動や養護・訓練的な取り組みの外、楽しんで取り組める生活単元学習や目標の明確な作業学習の場を保障し、できる事が増えていく自信や行動力・生活力を身に付けていく。

- ・運動や養護・訓練を通して肥満防止や健康増進を図りながら少しでもぎこちない動きを改善する。
- ・『過度の緊張』をほぐす。リラックスした雰囲気の中で簡単に取り組めることから始め、自信を持たせる。
- ・必要感や目的のある、繰り返しによる生活経験の積み重ねや拡大により極く近い見通しを持たせ、動きや技能を身に付けさせる。
- ・つけた技能及び自信で初めての分野でも嫌がらずに取り組もうとする意欲や粘りを持たせる。

3 指導の実際

(1) 日常生活の指導

生活リズムを確立し、見通しを持たせると同時に、一つ一つの活動の確実性を押さえ、自信を持って取り組めるようにする。

〈衣服の着脱〉

4月入学当初、登校しても何をして良いか分からず、指示が出るまでウロウロしていた。

- ・脱いだ服はそのまま、体操服の後ろも出たまま等衣服の始末がきちんとできない。
- ・見ていないと下着のままでも平気で外に出てくる。
- ・制服のスカートのホックが旨く掛けられず、かなりの時間と教師の手を要する。

更衣室に入ってから着替え終わるまでをパターン化し、その通りを繰り返す、指導していった。一学期の終り頃になって段々やり方が分かり出し、声かけや援助もかなり減った。これは、毎日の繰り返しでパターン化されているため見通しが持て出したこと、同時にH子自身が学校生活に慣れてきて落ち着いて、安心して生活でき出したことが大きいと思われる。

〈排泄・清潔〉

清潔にしようという意識よりも顔に水がかかることを嫌う傾向があり、洗顔に関しては、

- ・いい加減であったり、「片手」になったりする。
- ・片手がマヒのせいのように言われ、自分でもできないと思い込み、使おうとしない。


マヒではないという診断から経験不足が何より問題と考え、『両手で洗うこと』をしっかり意識づけていった。9月ではプール学習も含めて水への抵抗も減り、両手を使って洗顔しだした。今後も年頃の女の子であり、清潔に、おしゃれにしようという意識づけを行っていきたい。

(2) 生活単元学習（野外炊飯～臨海学校）

今まであまり経験したことのない、いろいろな活動に参加させ、励まし、支えながら、例えできなくともH子が経験する機会を与えることを主眼に置いて取り組んだ。次の表1は、少しずつ道具の扱いや手足を動かすことの抵抗が減ってきた様子を示したものである。

単元	題材	取り組みの様子
野外炊飯	火起こし	・マッチを使った経験がなく他の人には声援を送るが自分の番になると尻込みする。盛んに「怖い」の連発。したい気持ちはあるが恐怖感からマッチごと放り出す。点火は一度もできなかった。表情も堅い。最後には皆から遠く離れてぼんやりしている。
	調理活動	・包丁が怖くて持てない。教師が手を持ってさせるが、体は引く格好。道具を離そうとする。きゅうりはぶつぎり。玉葱は目にしみて盛んに嫌がる。野菜洗い・お米とぎは丁寧ではないが何とかできた。
	かまど作り	・ブロックが運べず、友達を見ていた。一つ運ぶごとに声かけ。どうやって作って良いか全く分からず、傍観者の立場。友達の様子を見て「アンバランスだなあ～」と言葉巧みに表現するが、「じゃあどうやったら良い？」と聞くと手も足もでない。



薪作り	<p>・鋸の経験は初めて。とにかく鋸が怖くて積極的に作業に向かえない。精神的にも疲れるのか直ぐ座り込む。先生や友達の励まし、補助を受けて足で何とか割ろうとした。</p>	
臨海学校 船作り	<p>・教師に鋸を持ってもらいながら最後まで諦めずに角材を切って船を作った。写真は一人で頑張っている必死の様子。何度も手が痛いのがまんしたり、ちょっと切れては「先生、見て。」と自分からアピールする。真剣そのもの。金槌はまだ自分一人ではうまく扱えない。ペンキ塗りは周囲に追い込まれる格好であったが、一人で黙々と7~8本塗った。</p>	

「できない」表現が多く、今までいかに道具を使ったり、身体を動かしたりすることを避けてきたかが想像できるが、一つ一つ丁寧に手厚く指導することで段々抵抗が減り、船作りでは自分1人で対象に向かう等「できなさ」や積極性という点で違ってきたことが伺える。経験の積み重ねや楽しみに支えられ、単元を通して、また単元の繋がりの中で少しはできることが増え、初めてのことで臆病がらずに取り組む姿が見られだした。

(3) リズム・サーキット

いろいろな道具や固定施設を使う経験がこのサーキットで保障された。かなりきつい動きもあるが、過度の負担がかからないように活動に参加させている。初めの頃は、よく身体が「痛い」とか「できん」と言っていたのが「自分でするから」に変わり、今では教師の指導にも比較的素直に応じ、やってみようとした。身体の動きや使い方、ボディイメージが段々改善されてきた。できなくても、恥ずかしがらずに緊張しないで取り組み出してきている。動くことの楽しさ、身体を使って表現することの喜びがH子自身に自覚されてきたためと思われる。これはまた、『友達と一緒にする楽しさ』『友達の励ましや声援』に大きく支えられている。

4 考察および今後の課題



顔に水がかかることを嫌っていたH子が、夏休みの終わり頃から積極的に「プール学習」で顔つけをさせた。『先生、見て。』と見てもらいたがっている。今ようやくH子自身、身体を動かすことの楽しさ、道具を使って物を作る楽しさを覚えつつある。様々な活動を提供してみて、身体のぎこちなさや自信のなさも、経験不足や諦めが大きな原因となっている感を強くした。また、少しずつできてきたこともあるが、それよりもH子の心が解放され、テストにも緊張しないで実力が発揮された事、114頁のMSTBの9月の結果が大きく伸びている事からも伺える。この力が更に生活場面でいろいろな事のできる状況を導くと考える。学校生活に、緊張せず、楽しく取り組める工夫をすると共に、できる状況をも作りながらいろいろな活動に取り組みせ、経験の充実や拡大を今後とも図っていききたい。